

〈ビジネスシステム〉

「思考力・判断力・表現力」を育成する教科指導の工夫

— 科目「広告と販売促進」における教材作成を通して —

沖縄県立南部商業高等学校教諭 大 城 美代子

I テーマ設定の理由

21世紀は知識基盤社会と言われ、「確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する『生きる力』をはぐくむこと」が重要だと指摘されている。高等学校学習指導要領解説商業編では、商業科の目標として「商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。」また「単に知識や技術を習得させることにとどまらず、知識と技術を活用する上で必要となる思考力、判断力、表現力等を育成すること、ビジネスの場面を想定した指導をすること、商業の学習と職業との関連について理解させることなどが大切である。」と示している。

本校の実態としては基礎基本が身につけていない生徒や、中学で不登校を経験した生徒、特に配慮を要する生徒などが多数入学してくるようになった。めざす生徒像として「自ら課題をみつけ、自ら考え、主体的に判断し、行動する生徒」をあげている。平成25年4月の学習指導要領実施に伴って教育課程の改編を行い、流通ビジネス科と情報ビジネス科では平成26年度より、科目「広告と販売促進」の導入を行い、流通ビジネス科の2学年で2単位、情報ビジネス科の2学年で3単位の学習を行っている。この科目のねらいは「広告や販売促進などに関連する知識と技術を習得させ、企業と消費者間のコミュニケーション活動の意義や役割について理解させるとともに、販売に関する活動を主体的、創造的に行う能力と態度を育てる。」としている。また、教科の指導にあたっては、「効果的な広告や店舗立地などを行っている企業の具体的な事例を取り上げ、ケーススタディなどを通して・・・(中略)実践的、体験的な学習を取り入れるようにする。」としている。

しかし、これまで授業を担当するなかで、教科書には生徒に身近な企業の具体例が少なく、興味・関心を持って授業に取り組む生徒はクラスによって差があり、説明中心の授業では、生徒の意欲を引き出し、理解させるまでに至らない状況があった。インターネットを活用した調べ学習では意欲的に取り組むが、ワークシート作成や発表のように、自分の考えをまとめたり、人に伝えたりすることが苦手な生徒が多い。現在、経済のサービス化・グローバル化が進み、顧客ニーズの多様化など市場環境が変化中、コミュニケーション能力はもちろんのこと、生徒が授業に主体的に参加し、自分で課題について考えたり、判断したり、自分の言葉で表現する能力を育むことがますます必要になる。

そこで、本研究では、生徒が興味・関心を持てるような教材の作成と、コミュニケーション能力を高める授業の工夫に取り組むと考えた。教材については、教科書では取り上げられていない、生徒の身近な店舗や沖縄の企業の具体的な事例を用いて作成を行う。授業デザインでは、協働的な学習を取り入れ他者と一緒に考えることで、考えを深め自分の言葉で表現する能力を育成したいと考え本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

科目「広告と販売促進」の学習内容において、身近な企業などの具体例を使った教材を作成することにより、生徒が興味・関心を持って授業に取り組み、さらに協働的な学習を取り入れた授業を実践することにより、「思考力・判断力・表現力」を育成することができるであろう。

II 研究内容

1 思考力・判断力・表現力について

平成27年8月文部科学省の教育課程企画特別部会が出した「論点整理」において、育成すべき資質・能力のひとつとして「情報を他者と共有しながら、対話や議論を通じて互いの多様な考え方の共通点や相違点を理解し、相手の考えに共感したり、多様な考え方を統合したりして、協力しながら問題を解決していくこと（協働的問題解決）のために必要な思考力・判断力・表現力等」をあげている。

本研究では、協働的な学習を引き起こしやすくする授業手法の1つである知識構成型ジグソー法を取り入れた授業実践において、自分の意見を発言し、他者の意見を聞き、「他者との多様な考え方の

違いを比較しながら自分の新しい考えを導きだしていく」活動を通して、思考力・判断力・表現力をはぐくむことをめざす。

2 知識構成型ジグソー法について

今回、東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構（以下、CoREF）（2016）が提唱している知識構成型ジグソーを取り入れていく。CoREFは知識構成型ジグソー法について、「課題解決の手がかりとなる知識を与えて、その部品を組み合わせることによって答えを作り上げるという活動を中心にした授業デザインの手法である」と紹介している。

活動手順は「最初に本時の問いを提示し、各自が自分なりの答えを考えてみる。その後、その問いによりよい答えを出すための3つ程度の異なる部品（エキスパート資料）をグループに分かれて検討し、自分の言葉で説明できるよう準備する（エキスパート活動）。異なる部品（エキスパート資料）を担当したメンバーが1名ずつ集まってグループを作り、最初の問いに対する答えを作り上げる（ジグソー活動）。ジグソー活動で出てきた答えを教室全体で交流し、異なる考えや表現から学ぶ（クロストーク活動）。最後は各自が自分で答えを書き留める。」（図1）この一連の活動で、「他者と一緒に考えることで理解が進み、自分の考えを深める」ことができる。

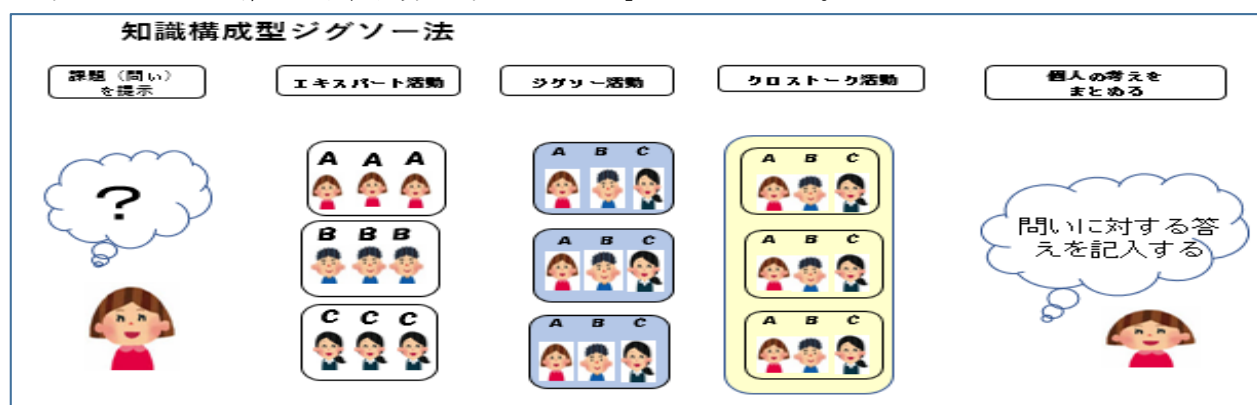


図1 知識構成型ジグソー法

3 ICTの活用について

今回グループの意見を短時間でまとめるために、タブレット端末を使用し、アプリ「ロイロノート」を取り入れた。

4 実態調査

(1) 目的

科目「広告と販売促進」における学習内容と学習意欲に関する調査を行い、生徒の実態を把握し、授業の工夫、学習教材を作成する上での参考資料とする。

(2) 対象および実施日

対 象：流通ビジネス科2年1組 選択者25名・情報ビジネス科2年3組 選択者13名

実施日：平成26年6月8日（水）38名中34名から回答を得た。

(3) 結果および考察

「授業は楽しい」との設問に対して、2クラスともに約5割に近い生徒が「授業は楽しい」と答えている。「授業は理解できている」との設問に3組の生徒はおよそ75%の生徒が肯定的に答えているが、1組の生徒は41%と低くなっている（図2）。

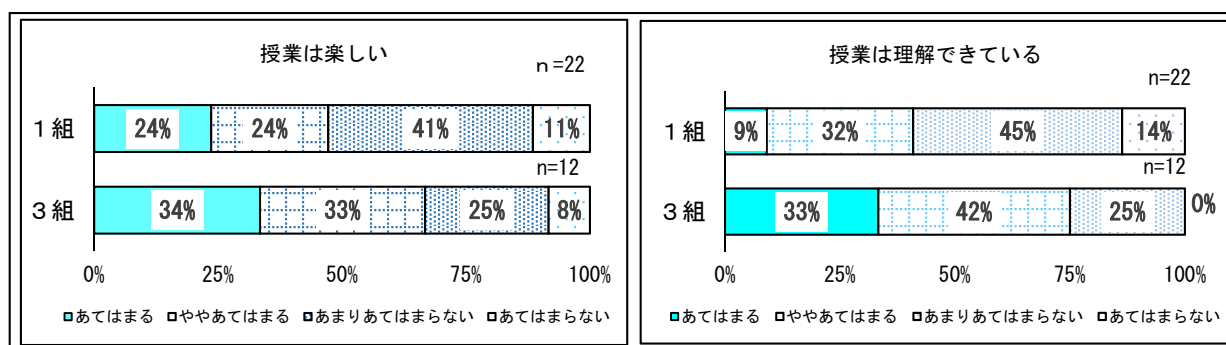


図2 事前アンケート結果1

次にグループ学習などに関する設問では、「グループで話し合いながら学習する授業」が「好き」「やや好き」と2クラスともに5割を超える生徒が答えている。しかし、「与えられた課題について自分で調べたことを発表する授業」が「好き」「やや好き」と肯定的に答えた生徒は、2クラスともに25%ととても低い状況である（図3）。

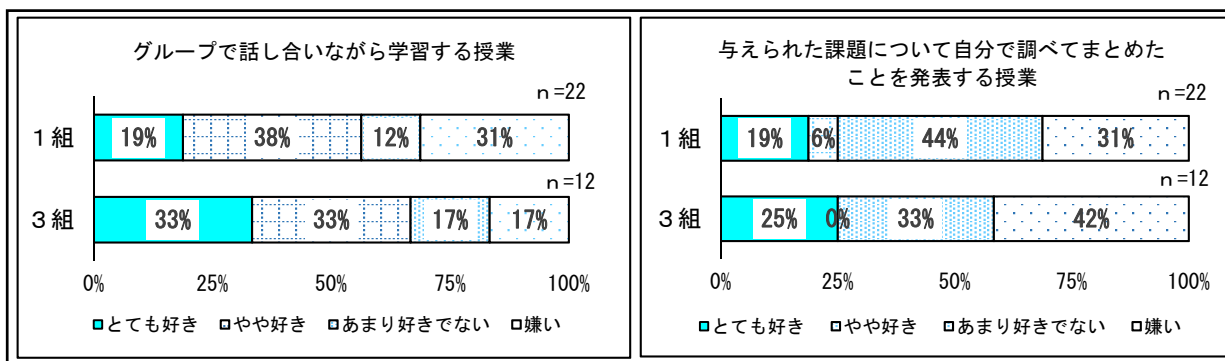


図3 事前アンケート結果2

さらに、「授業では友達と話すことで、より深く考えることができる」との設問には、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた生徒が1組では46%と低いが、3組では84%と高くなっている。「授業で自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのが難しい」との問いに「とても思う」「やや思う」と答えた生徒は1組では73%、3組で67%と2クラスとも苦手意識が強い傾向が見られた（図4）。

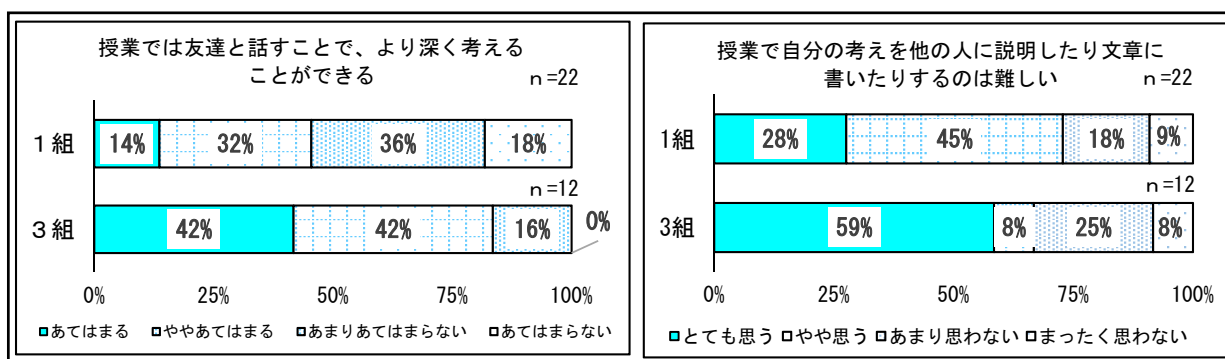


図4 事前アンケート結果3

以上のことから、授業は楽しい、授業は理解できていると答えた生徒の割合が3組では多く学習に意欲的だが、1組では低くクラスにより授業に取り組む意欲に大きく差が生じていることが分かった。また、「文章を書くのが苦手」「発表が苦手」と答えている生徒が多く、自分の考えを文章で表現したり、発表したりすることが苦手な生徒も多いことが分かった。そこで、知識構成型ジグソー法（表1）を取り入れ、全員が自分の考えをグループのメンバーに伝え合ったり、グループや他者の意見を聞くことにより、他者の意見と組み合わせながら、自分なりに考えを文章にまとめていくことで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

表1 知識構成型ジグソー法の一連の流れと今回の授業の流れ

知識構成型ジグソー法の一連の流れ	今回の授業の流れ
① 学習課題の提示 授業で答えを出したい課題を提示	① 「なぜ、みんなはコンビニエンスストアに行くのだろう」（各自課題について自分の言葉でワークシートに記入する）
② エキスパート活動 課題に対する答えを出すために必要な部品（視点の異なる資料）を読み検討する。	② エキスパート活動 A：立地・商圏 B：店舗のレイアウト C：商品の品揃えと陳列 （A、B、Cの各エキスパートに分かれて、資料を読み内容を検討する）
③ ジグソー活動 異なる部品を担当したメンバーが1名ずつ集まってグループを作り、最初の問いに対する答えを作り上げる。	③ ジグソー活動 エキスパート活動で学習した知識や内容をまとめて、ジグソーメンバーで伝え合う。そして課題についてそれぞれが持っている内容を組み合わせながらグループで考える。

④ クロストーク活動 まとめた考えを全体で発表する。	④ クロストーク活動 ジグソーグループごとの意見を発表し合い、各自でテーマについて再度考える。
⑤ 授業後にもう一度自分の考えや意見を記入する。	⑤ 「よさそうだ」と思う説明・表現を取り入れ、課題について再度考え、自分の言葉でまとめる。
⑥ その先に	⑥ 食品スーパー等についても同じ視点で考える。

(注釈：左表は、CoREF『協調学習 授業デザインハンドブック』より引用、右表は報告者作成)

5 指導用教材・学習教材の作成

(1) 提示用教材

生徒にとって身近なコンビニエンスストア、食品スーパー、ディスカウントストアの中から3社の協力を得、プレゼンテーションソフトを使用し、商品陳列例や専門用語等について、生徒が学習内容をイメージしやすいよう、撮影した写真や図形などを用いて作成した(図5)。その際、アニメーション機能を用いて視覚的な効果も取り入れた。また、説明や板書にかかる時間を短縮することで「考える時間」や「グループ活動」の時間を確保できるメリットもあると考える。



図5 提示用教材

(2) 学習教材

① 知識構成型ジグソー法の教材

知識構成型ジグソー法の説明用の教材として図やイラストを多く用いて作成した。エキスパート活動で使用する教材は、撮影した店舗の写真を用いて作成した(表2、図6)。

表2 エキスパート活動で使用する教材

エキスパート活動で使用する教材		
①店舗の立地	②店舗レイアウト	③商品の品揃えと陳列
立地の異なる3店舗周辺の地図に、生徒の思考を助けるため、店舗周辺の写真を撮影して一緒に表示して作成	コンビニエンスストアと食品スーパーの店舗レイアウト図作成(違いから気づかせる)	コンビニエンスストアと食品スーパーの日用品の商品陳列等の写真を用いて作成(違いから気づかせる)

商圈と立地	店舗レイアウト	商品の品揃えと陳列
A店 B店 C店		

図6 エキスパート活動資料

② ワークシート作成

エキスパート活動で使用するワークシートは、課題の「なぜ、みんなはコンビニエンスストアに行くのだろう」について各自の考えを導き出せるように、項目ごとに分けた。項目ごとの質問内容は抽象的な文言は避け、限られた時間で資料を読み取り、自分の考えを短時間で答えられるように作成した(図7)。毎時間用いるワークシートは内容を詰めすぎないようにし、学習内容を提示用教材と合わせて記入し、学習のポイントをまとめることができるようにした。質問事項は学習内容に興味を持ち、各自の考えを記入できるような内容にした。提示用教材にも撮影した食品スーパーの写真や図・イラストなどを取り入れ、生徒が興味を持てるように工夫を行った。学んだ知識を再確認するため、振り返りシートを作成して、学習目標を達成できたか4段階で評価し、分かったこと、分からなかったことを記入することで、理解状況を表現させた。また、教師側としても生徒の学習状況を把握し、指導の改善を図る資料とした。

図7 ワークシート

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 第4章 店舗の立地と設計 1. 店舗の立地 2. 店舗の設計 3. 商品の棚割と陳列

2 単元の指導目標

- (1) 店舗の立地が小売業の業績を大きく左右することを認識させ、その選定要件について、観点、要因、手順について整理させる。
- (2) 店舗のレイアウトが売り場形態によって左右されることを理解させる。
- (3) 店舗レイアウトをフロア・マネジメントの側面から理解させる。
- (4) 効果的な陳列方法やディスプレイの種類について理解させる。
- (5) 学んだ知識を活用するための、思考力・判断力・表現力を高めさせる。

3 単元の設定理由

(1) 教材観

これまで販売促進や広告の概要、消費者行動の理解、広告計画の手順の内容について学習してきた。本単元では、店舗のレイアウト、効果的な陳列方法等について身近な企業を教材として用いることで理解を促す。また、学んだ知識を覚えるだけでなく、他者と一緒に考える機会を多く持つことで思考力・判断力・表現力を育成するために知識構成型ジグソー法を取り入れた教材を活用する。

(2) 生徒観

本校情報ビジネス科の生徒は、1年生で「ビジネス基礎」を学習しており、ビジネスに関する基礎的・基本的な知識と技術は習得している。事前アンケートの結果から、約50%の生徒が「授業が楽しい」と答えているが、「授業で自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのが難しい」と答えている生徒が60%以上もいる。生徒同士で話し合いや協力し合える雰囲気があるので、グループ活動を活用することが効果的ではないかと考える。

(3) 指導観

生徒の身近なコンビニエンスストアや食品スーパーの立地や商品陳列の提示用教材を用い、興味・関心を引き出す工夫を行う。知識構成型ジグソー法を取り入れ、学んだ知識を活用しビジネスの世界と結びつけながら考えさせ、その考えを他者に説明したり、考えを聞いたりする活動を通して、他者の異なる意見と組み合わせて自分なりの言葉で表現できるようにする。短時間でグループの考えをまとめ、他者にわかりやすく伝えるためにタブレット端末を活用する。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ア. 身近な小売業者の立地・商圈、店舗設計、商品の棚割と陳列に関心をもち主体的に学ぼうとしている。 イ. グループ活動に参加し、各自の役割を認識し、課題に関心をもち取り組んでいる。	ア. 商圈の範囲・立地、店舗のレイアウト、商品の棚割と陳列について様々な角度から判断し思考できる。 イ. 売り場は利便性の追求のみだけでなく、買い物の楽しさを演出する場であることを思考できる。 ウ. グループ活動に参加し、課題について資料を読み取り判断している。さらに、自分の考えを他者に説明し、他者の異なる意見と組み合わせて表現できる。	ア. 小売業の店舗立地の選定を行うことができる。 イ. 効果的な店舗レイアウトを行うことができる。 ウ. 効果的な棚割を行うことができる。	ア. 商品の種類や業種・業態・店舗規模により商圈の広さが決定されることを理解し、効果的な店舗立地について理解している。 イ. 売り場の形態についての知識を有し、フロア・マネジメントを理解している。 ウ. ディスプレイの基本を理解し効果的な陳列の方法に関する知識を有している。

5 教材・教具・資料

- (1) 教科書データPDF形式
- (2) デジタルデータ
- (3) iPad
- (4) プロジェクター
- (5) スクリーン
- (6) 生徒配布用プリント

6 単元の指導計画と評価計画（全9時間）

単元	時間	主題名	○ねらい・学習活動	評価の観点				評価資料及び 評価方法
				関	思	技	知	
店舗の立地と設計	1	1. 店舗の立地 (1) 店舗立地とは ①店舗立地と商圈 ②商圈と商品の種類 ③商圈の区分 ④商圈範囲の測定	○店舗立地と商圈について理解させる。 ○最寄品・買回品・専門品の商圈範囲について理解させる。 ○第1次商圈、第2次商圈、第3次商圈を理解させる。 ○商圈範囲の測定方法について理解させる。			ア	ア	ワークシート 行動観察
	2 3	(2) 立地の選定条件 ①立地のとらえ方 ②立地の決定要因 ③立地選定の手順 ○ブレインストーミングを用いて「食品スーパーにとって条件のよい立地について」グループで話し合う。	○店舗立地が小売業業績を大きく左右することを認識させ、その選定条件について観点、要因、手順について整理する。 ○「食品スーパーにとって条件のよい立地について」グループで協力してまとめることができる。	ア	ア			ワークシート 行動観察
	4	2. 店舗設計 (1) 店舗設計とは (2) 店舗設計の計画 ①ポジショニングの決定 ②ストア・コンセプトの確定 ③ストア・デザインの描写 ④マーチャンダイジングの確立 (3) 店舗レイアウト ①売り場形態 ②フロア・マネジメント	○店舗設計がストア・ロイヤルティにつながることを理解させる。 ○店舗設計の計画についてその手順を理解させる。 ○店舗レイアウトが売り場形態によって左右されることを理解させる。		イ	イ	イ	ワークシート 行動観察
	5	3. 商品の棚割と陳列 (1) 棚割の方法 (2) 陳列の方法	○棚割がグルーピング、ゾーニング、フェイスングの順番で決定されることを理解させる。 ○効果的な陳列の方法について理解させる。			ウ	ウ	ワークシート 行動観察
	6 7	4. コミュニケーション能力 ○PREP法 ○タブレットの使用方法 ○知識構成型ジグソー法	○コミュニケーション能力・論理的に思考することの必要性を理解させる。 ○タブレットの使用方法について理解させる。 ○知識構成型ジグソー法について理解させる。	イ				ワークシート 行動観察
	8 9	5. 知識構成型ジグソー法 ○課題「なぜ、みんなはコンビニエンスストアに行くのだろう」について ○エキスパート活動 各エキスパートで説明用のスライドを作成。 ○ジグソー活動 ○クロストーク活動 ○課題について各自でまとめる。	○知識構成型ジグソー法について確認する。 ○「なぜ、みんなはコンビニエンスストアに行くのだろう」について各自考えさせる。 ○学んだ知識を活用し、課題について他者の異なる意見と組み合わせで自分なりの言葉で表現できる。	イ	ウ			ワークシート 行動観察

7 本時の学習指導

- (1) 日時：平成28年11月9日（水）3・4校時
- (2) 対象：南部商業高等学校 情報ビジネス科 2年3組 選択者13名
- (3) 科目：「広告と販売促進」

(4) 主題名：「なぜ、みんなはコンビニエンスストアに行くのだろう」

(5) 本時の指導目標

商圈・立地、店舗のレイアウト、商品の品揃え・陳列について、学んだ知識を活用しながら、グループでの話し合いを通して「なぜ、みんなはコンビニエンスストアに行くのだろう」の課題について、他者と一緒に考えながら自分の言葉で表現することができる。

(6) 授業仮説

知識構成型ジグソー法を取り入れ、課題について、3つの違う視点の資料を用いて他者と一緒に考え、相手に分かりやすく説明し合う活動を通して、他者の異なる意見と組み合わせて自分なりの言葉で表現できるようになるであろう。

(7) 本時の評価規準

【評価の観点】 評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	評価方法
【関心・意欲・態度】 グループ活動に参加し、各自の役割を認識し、課題に関心を持ち取り組んでいる。	グループ活動の中心になってメンバーと協力し、課題に関心を持ち意欲的に取り組んでいる。	グループ活動に参加し、各自の役割を認識し、課題に関心を持ち取り組んでいる。	グループ内での役割を確認し、資料を丁寧に読み取るヒントを与える。	行動観察
【思考・判断・表現】 グループ活動に参加し、課題について資料を読み取り判断している。さらに、自分の考えを他者に説明し、他者の異なる意見と組み合わせて表現できる。	グループ活動に積極的に参加し、課題について資料を読み取り判断している。また、他者の意見を聞き、3つの異なる視点から組み合わせて導き出した自分の考えを表現することができる。	グループ活動に参加し、課題について資料を読み取り判断している。さらに、自分の考えを他者に説明し、他者の異なる意見と組み合わせて表現できる。	資料を読み取るヒントやワークシート記入についてヒントを与え、課題について自分の言葉で表現できるように支援する。	行動観察 ワークシート

(8) 本時の展開 評価の観点（【関】関心・意欲・態度 【思】思考・判断・表現 【技】技能 【知】知識・理解）

学習展開	生徒の活動	教師の活動	使用教材	評価の観点
導入 15分	1. ジグソーグループ別に着席する。 2. 生徒の号令により、姿勢を正し、身なりを正し始めの挨拶をする。 3. 出席点呼			
	4. 前時の学習内容の確認 5. 本時の目標の確認	4. 前時の学習内容の確認 5. 本時の目標を確認する。		
	【目標】 課題（問い）「なぜ、みんなはコンビニエンスストアに行くのだろう」について			
展開 I 35分	6. ワークシートを受け取る。 7. 課題について、各自の考えを記入する。	6. ワークシートを配布する。 7. 課題について各自の考えを記入する。	ワークシート タブレット プロジェクター	【関】 行動観察 ワークシート
	8. 知識構成型ジグソー法について確認 9. エキスパート活動を行う。 ○エキスパートの担当を決める。 ○エキスパートグループに分かれて着席する。 ○エキスパート資料を受け取る。 ○エキスパートの資料を見て、課題について考えワークシートに各自の考えを記入する。お互いの考えを伝え合いグループの意見をワークシートにまとめる。 ○ジグソー活動で説明できるように各自タブレットを用いて課題について整理する。	8. 知識構成型ジグソー法について確認を行う。 提示用教材を用いて説明する。 9. エキスパート活動の指示を行う。 ○エキスパートの担当を決めさせる。 ○エキスパートグループに分かれて着席するよう指示する。 ○エキスパート資料を配る。 ○各エキスパートの資料を見て課題について考えワークシートに各自の考えを記入する。お互いの考えを伝え合いグループの意見をワークシートにまとめさせる。 ○ジグソー活動で説明できるように各自タブレットを用いて課題について整理させる。	ワークシート タブレット プロジェクター タイマー	

展開 Ⅱ 20分	10. ジグソー活動を行う。 ○ジグソーグループに移動して着席する。 ○エキスパートグループでまとめた内容をジグソーグループに一人2分以内で伝え合う（タブレットを用いる）。 ○ジグソーグループで課題について3つの視点からまとめ、さらに全体的な視点でまとめワークシートに記入する。 ○タブレットを用いて、発表準備を行う発表者、タブレット操作担当者を決める。 ☆発表担当者のタブレットに作成したカードを送る。 ○課題についてまとめたカードをつなぎ合わせながら協力して作成する。	10. ジグソー活動の指示を行う。 ○ジグソーグループに移動し着席させる。 ○エキスパートグループでまとめた内容を一人2分以内でジグソーグループのメンバーに伝えさせる（タブレットを用いる）。 ○ジグソーグループで課題について3つの視点からまとめ、さらに全体的な視点でまとめワークシートに記入させる。 ○タブレットを用いて発表準備を行う。発表者、タブレット操作担当者を決める。 ☆発表担当者のタブレットに作成したカードを送る。 ○課題についてまとめたカードをつなぎ合わせ協力して作成させる。	ワークシート タブレット プロジェクター タイマー	【思】 行動観察 ワークシート
展開 Ⅲ 20分	11. クロストーク活動を行う。 ○ジグソーグループごとにまとめたことを発表する（3分以内）。 12. 他のグループの発表を聞き「なぜ、みんなはコンビニエンスストアに行くのだろう」について自分の考えをまとめ、再度ワークシートに記入し提出する。	11. クロストーク活動の指示を行う。 ○ジグソーグループごとに、課題についてまとめた内容を発表させる（3分以内）。 12. 他のグループの発表を聞き「なぜ、みんなはコンビニエンスストアに行くのだろう」について各自の考えをまとめ、再度ワークシートに記入させ回収する。	ワークシート タブレット プロジェクター タイマー	【思】 行動観察 ワークシート
まとめ 10分	13. 本日の振り返りをする。 振り返りシートを記入し提出する。 14. 次回の授業内容を確認する。 15. 身なりを正し終わりの挨拶をする。	13. 本日の振り返りを行う。 振り返りシートを記入させ回収する。 14. 次回の授業内容を確認する。 15. 身なりを正し終わりの挨拶をさせる。	ワークシート スライド	

(9) タブレットを使用するための環境整備とアプリ「ロイロノート」

短時間で発表を行うために、アプリ「ロイロノート」を用いた。このアプリの特徴としてお互いのデータを瞬時に共有できグループでの意見を短時間でまとめ発表用の「プレゼンテーション資料」の作成が簡単にできる。普通教室でタブレットを使用するには、教室に設置されたインターネット・モジュラージャックにアクセスポイントをつなぎ、AppleTV を接続し、タブレットが使用できる環境を整える。学校でもタブレットはあるがロイロノートが使用できる環境が整っていなかったため、本検証クラスでは沖縄県総合教育センターのタブレット 15 台を借用して行った。

Ⅳ 仮説の検証

科目「広告と販売促進」において、①身近な企業などの具体例を使った提示用教材を作成することにより、生徒が興味・関心を持って授業に取り組み、②「協働学習」を取り入れた授業を実践することにより、「思考力・判断力・表現力」を育成することができたかを、授業の様子、ワークシート、授業後のアンケート調査から検証を行う。

1 提示用教材の有効性について

生徒の身近なコンビニエンスストア、食品スーパー、ディスカウントストアの商品陳列や難しい専門用語の説明について、撮影した写真や図・イラストを用いた提示用教材を授業に取り入れることで、生徒の興味・関心を高めることができたか事後アンケート結果や振り返りシートなどから考察する。

「提示用教材はわかりやすかったか」との設問に 1 組では 68%、3 組では 91% の生徒が肯定的に答えていた（図 8）。理由としては「絵や表があるとわかりやすい」「画像があってわかりやすい」「文字が大きく

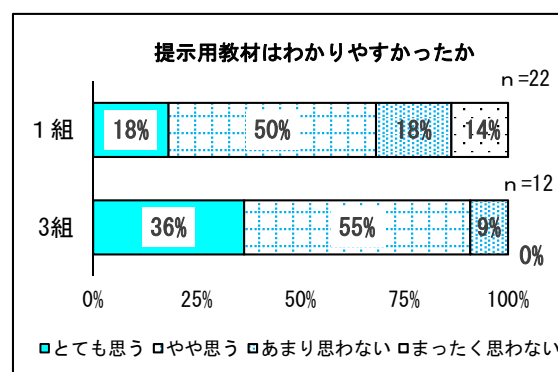


図 8 事後アンケート 1

みやすい」との意見があげられていた。

「授業は理解できた」との設問に対しては、2クラスともに、肯定的な意見が多少ではあるが上昇した(図9、10)。しかし、「パソコンが嫌い、提示用教材は好きではない」「進めるのが早い」と回答している生徒もあり、黒板との併用も行いながら、ICTを効果的に活用した授業展開の工夫・改善がさらに必要であると考ええる。

2 「思考力・判断力・表現力」の育成について

知識構成型ジグソー法を取り入れた授業実践を行い、「思考力・判断力・表現力」の変化をワークシートの記述内容とアンケートをもとにして検証する。

(1) ワークシート

ジグソー法の授業の最初と最後で、ワークシートの記述内容に変化がみられたか分析を行った。「なぜ、みんなはコンビニエンスストアに行くのだろう」の課題に対し、検証授業クラス(3組)では、授業最初の課題についての記入内容として、「近いから」「必要なものがあるから」など、1つの項目や短文で記入している生徒が多かった。これは学んだ知識を活用して各自の考えを記入するよう指示を与えなかったことも影響している。しかし、授業の最後では、エキスパート活動で話し合った3つの視点(①商圏・立地②店舗レイアウト③商品の品揃えや陳列)から他者の意見などを交えて答えるなど、それぞれの資料から読み取った知識や他者の意見を組み合わせで記入している生徒が多かった(表3)。これは他者の意見と自分の意見を比べながら考えて記入している様子が内容から読み取れる。また、検証授業クラスのエキスパート活動では全ての生徒が各自のワークシートをまとめ、自分の考えをグループに伝えることができた(写真1)。

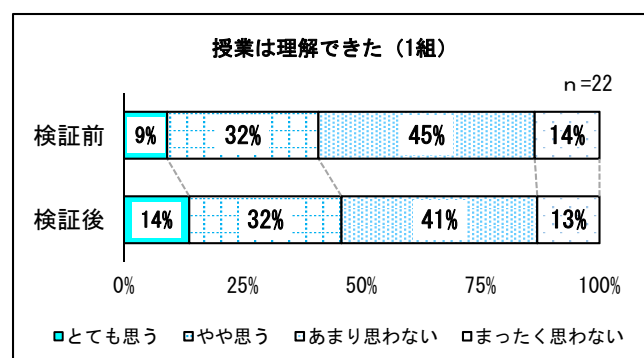


図9 事後アンケート2

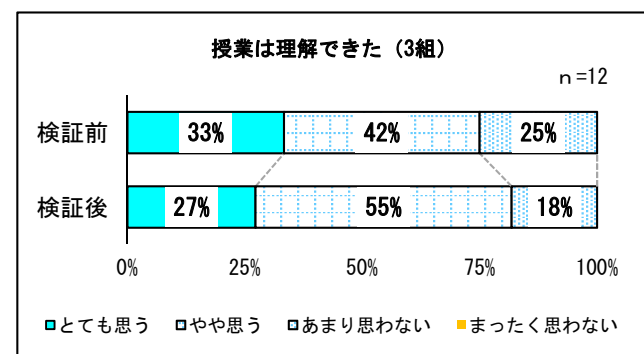


図10 事後アンケート3

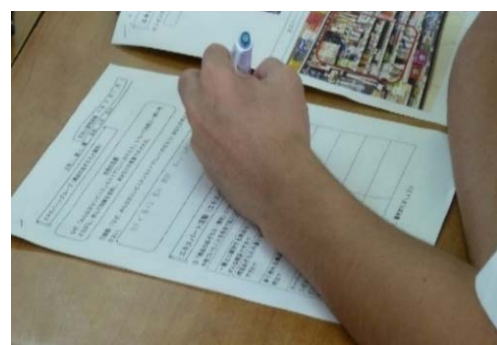


写真1 ワークシート記入の様子

表3 ジグソーワークシート記述内容

生徒	授業の最初	授業の最後
Aさん	家が近いから 安くてなんでもあるから	道路沿いや住宅街などにあり、より安く、日用品や食べ物など様々な物がそろっており、気軽によれるから。また、商品の陳列場所や陳列方法など、お客さんが見やすく、おもわず買ってしまったくなるような工夫がされているからコンビニエンスストアに行くんだと思います。
Bさん	お菓子や飲み物を買 いに行く	おかしなど、自分が必要な商品を買に行ったり、生活用品を取りそろえているなどのことがある。飲み物や雑誌なども買に行ったり、おなが空いたら日常的に買える所だと思う。いろいろなグループで意見が全然違う。
Cさん	家から近いから	コンビニとはいろんな商品がある、例えば、お菓子、ラーメン、飲み物などの飲料や雑誌、漫画などの娯楽、シャンプー、リンス、ゴミ袋などの生活用品など様々な商品を取りそろえており、大変便利な場所です。なので皆はコンビニに立ち寄るのではないのでしょうか。
Dさん	近くにあって、すぐ 行けるから	道ぞいにあって、すぐ行くことができる。新商品やすぐ売れる商品の陳列の仕方に工夫されている。

ジグソー法を行っての感想では、「他の人の意見を取り入れることで、新しいものが生みだせるような気がした」「調べる内容をグループで分けることで、まとめるのがスムーズに進み、他のグループの意見が聞けて良かった」「それぞれの意見をだしあって楽しかった。自分の意見だけでなくいろんな意見が聞けてよかった」などの意見があげられた。協働学習を行うことで、全体で発表することが苦手な生徒もグループでお互いの意見を伝え合い、他者の視点の違う意見を聞くことにより、表現力や思考力を高めることにつながったのではないかと考える（写真2）。



写真2 ジグソー活動の様子

(2) アンケート

「グループ活動で他のメンバーの意見を聞き、自分の考えがまとめやすくなった」の設問に1組では81%、3組では、73%の生徒が肯定的に答えている（図11）。「グループ活動を通して感じたことについて」の自由記述では、「協力してグループみんなで納得できる結論ができた」「自分1人じゃできなかったと思われるところが難なくできた」「コミュニケーションをとるのが苦手なので、それなりに行動することができた」「協力性が増したチームワークの大切さがわかった」などの意見があった。

本検証授業（3組）では、エキスパート活動に多くの時間を要することになり、時間内にクロストーク活動まで終えることができず検証授業後に行った。質問事項の精選や適切な時間配分ができるような授業デザイン、発問の工夫等を行うことが課題としてあげられる。1組では、エキスパート活動の資料を読み取ることでできない生徒や欠席した生徒がおり、活動がスムーズに行えないグループが出た。欠席者がいる場合のグループメンバー同士の支え合いが行えるような集団づくりのサポートや指導を、継続的に行う必要があると考える。さらに、クラスの状況に合わせた課題の設定や提示する資料の量の工夫・改善を行うこととで効果が高められると考える。

「授業で自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」との設問に1組では検証後も難しいと感じている生徒の割合が増えた。3組では「とても思う」と答えた生徒が8ポイント減少したが、難しいと感じている生徒の割合に変化はなかった。クラスの状況により適宜キーワードを提示したりするなど工夫する必要がある（図12、図13）。

「自分の考えを自分なりに伝えることができた」の設問に1組では64%、3組では全員肯定的に答えている。2クラスともにグループ学習をする機会が少ないが、3組ではテーブルを囲んでの授業形態が普段から行われていることや、生徒の学習に対する意欲の差が大きく影響していると推測される（図14）。

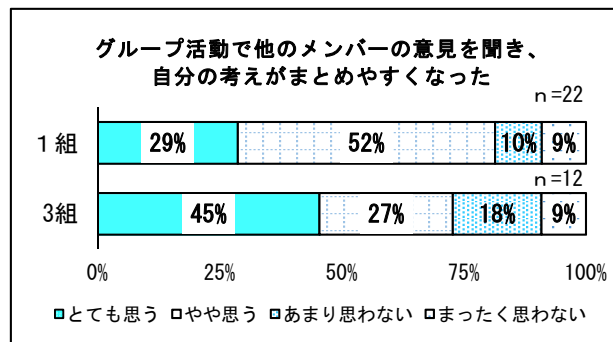


図11 事後アンケート4

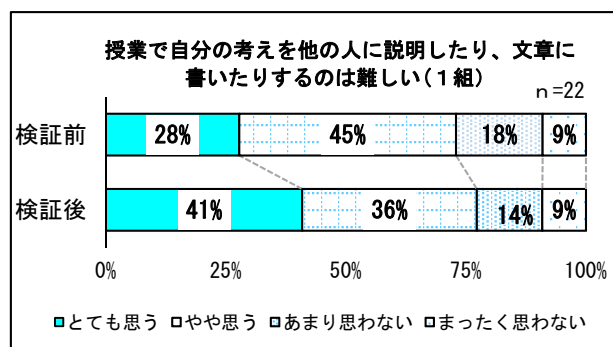


図12 事後アンケート5

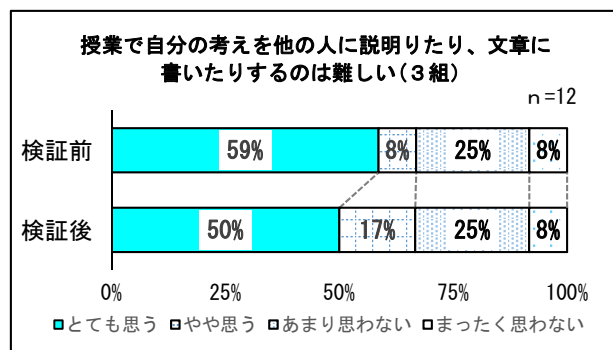


図13 事後アンケート6

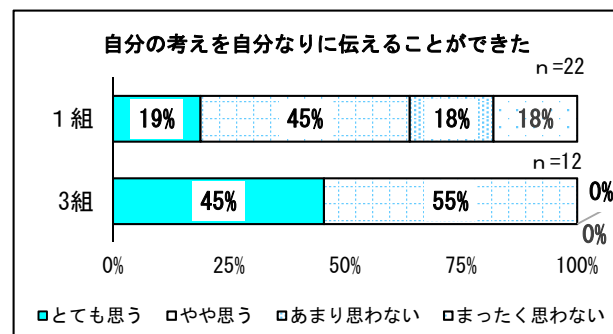


図14 事後アンケート7

「自分の考えを自分なりの言葉で記入できた」の設問に1組では82%、3組では92%の生徒が肯定的に答えており、他者の意見を聞く場面が複数回あることにより、課題について考える機会が多くなり、思考しながら自分なりの言葉でまとめることができるようになったのではないかと考える（図15）。

(3) タブレットの活用

短時間でジグソーグループの意見をまとめ、発表を行うためアプリ「ロイロノート」を活用した。「タブレットを用いるとグループの意見が短時間でまとめやすい」との設問に、肯定的に答えた生徒の割合が、2人に1台割り当てた1組では77%、1人に1台割り当てた3組では全員肯定的に答えている（図16）。普段授業に参加しない生徒でも意欲的に取り組み、グループのメンバーと協力して、堂々と発表まで行うことができた。タブレットを活用することで、生徒が興味・関心を持って授業に取り組み、グループの意見を短時間でまとめ、発表用のプレゼン資料を短時間で作成することに効果的である。さらに、グループのメンバーで操作方法について教えあったりする場面もあり、お互いに学び合う表現活動が自然にでき協働的な学びにも効果的である（写真3）。今後タブレットの機能を効果的に用いた授業デザインを行うことで、生徒が主体的に授業に参加し表現力を高めることが更に期待できると考える。

(4) 実践講話

検証授業後、学んだ知識を深めるために、コンビニエンスストアの広報やマーケティングを担当している方を招いての講話を行った。実際にテレビで使用されたコマーシャルを取り上げ、視聴者にインパクトのあるコマーシャルを効果的に作るための工夫や、コンビニカフェを例に取り上げて、新商品を売り出すまでのマーケティング手法について、様々な視点から生徒が興味を持ち、理解しやすいように、スライドや動画を用いて丁寧にわかりやすく講話して頂いた。

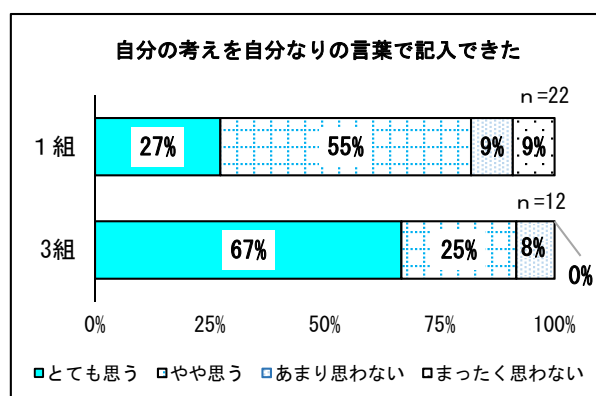


図 15 事後アンケート 8

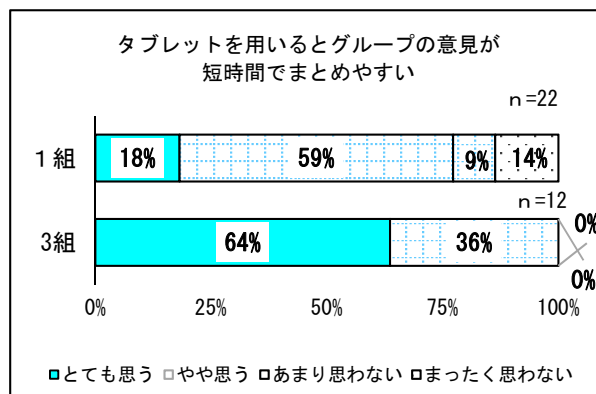


図 16 事後アンケート 9



写真3 タブレット操作の様子

表 4 実践講話生徒感想

Aさん	私は将来海外で店を開きたいと思っています。そのためには、 <u>立地条件と商圈について</u> も今学んでいるので、それらを多く活用していつか自分の店舗が有名になるようにしたいと思いました。〇〇さんの考え方もとっても面白かったし、楽しかったです。また、こんな機会があったらとっても楽しみにしています。 <u>次はファーストフード店やコーヒーショップの店舗についても知りたいことがたくさんあるので自分で調べたいと思いました。</u>
Bさん	自分たちが日々利用している物には、いろいろな工夫、アイデアが組み込まれているんだなあと改めて実感できました。この講話で学んだことを活かして、 <u>いろんな事を違う観点で見直したり、考えたりする事ができるようになりたいと思いました。</u> そのためには日々自分たちが利用している物、周りにある物の意味をきちんと理解し、利用できるようになる事が必要だと思いました。

生徒達は、企業の広告や販売促進の現場で活躍している方の講話を通して、顧客ニーズの多様化が進み、市場環境が変化する実際のビジネス界の現状に触れることができた（表4）。今後も学習内容と関連する企業の方を招いての講話や企業見学なども行い、目まぐるしく変化する経済社会に関連づけた学習も行いたいと考える。

3 考察

検証の結果から、「協働的な学習を取り入れた授業」を実践し、身近な企業などの具体的な事例を使った教材作成をすることで、生徒が興味・関心を持って授業に取り組み、「思考力・判断力・表現力」をはぐくむことに一定の効果があったと考える。コミュニケーションが苦手な生徒や、授業で自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることが難しいと答えていた生徒も、自分の考えを伝え合う活動やグループで話し合ったりする活動を通して、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力が高まり、自分なりの言葉で伝えたり、表現したりすることができたのではないかと考える。

V 成果と課題

1 成果

- (1) 県内の企業を訪問し、撮影した写真や図・イラストを活用し、生徒が興味を持てるような教材を作成することができた。
- (2) 知識構成型ジグソー法を取り入れた授業実践を通して、思考力・判断力・表現力の育成に一定の効果を確認することができた。
- (3) タブレットを活用することで、生徒の興味・関心を引き出すことができた。
- (4) 検証授業後、実践講話を行い、実際に企業が取り組んでいる事例を学ぶことで、学んだ知識を活用しながら思考を深めさせることができた。

2 課題

- (1) 生徒が深く思考し判断するための課題設定、資料内容やワークシートについて引き続き研究を行っていく。
- (2) 生徒の実態に合わせて、作成した学習教材の工夫・改善を今後も行っていく。
- (3) 知識構成型ジグソー法で「建設的相互作用」を引き起こすための指示や発問の工夫を継続して研究していく必要がある。
- (4) ICTを効果的に活用した授業デザインの工夫・改善を行い、授業でタブレットを使用する際のマナーや情報モラルについても指導を行っていく。

〈参考文献〉

三宅なほみ 他 2016 『協調学習とは』 北大路書房
沖縄県立総合教育センター 2016 『平成 28 年度 前期長期研修員研究報告書』
笹井 清志 2015 『コンビニのしくみ』 同文館出版
齋藤嘉則 2015 『新版 問題解決 プロフェッショナル』 ダイヤモンド社
P. グリフィン 他 2014 『21 世紀型スキル』 北大路書房
武井 寿 他 2013 『文部科学省検定教科書 広告と販売促進』 実教出版株式会社
文部科学省 2010 『高等学校学習指導要領解説 商業編』 実教出版株式会社
文部科学省 2009 『高等学校学習指導要領解説 総則編』 東山書房

〈参考URL〉

文部科学省 教育課程企画特別部会 『論点整理 補足資料』 最終閲覧 2016 年 12 月
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料』
最終閲覧 2017 年 1 月
CoREF 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 『協調が生む学びの多様性 第2集』 最終閲覧 2017 年 1 月
CoREF 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 『協調学習 授業デザインハンドブック』 最終閲覧 2017 年 1 月
山形県教育センター 『協調学習と新しい学びの構築について』 最終閲覧 2017 年 1 月
香川県教育センター 『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価』 最終閲覧 2017 年 1 月